

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教173年
6月号

縦の伝道講習会

前月5月21日、大教会祭典講話として天理教少年会本部委員長山本利彦先生を迎え、縦の伝道講習会が開催されました。

「今年度の基本方針」

「教会おとまり会の全隊実施」を打ち出しております。また教会おとまり会を通して、子供たちが親神様、教祖を身近に感じることが、こどもおぢばがえりへの帰参にもつながることになります。

私達の少年会活動の大前提は、子供に信仰の喜



お話し下さる
山本利彦少年会本部委員長

びを伝えるという事でございます。子供に信仰を伝え、そしてその喜びを伝えていくのが、我々の少年会活動の大前提であるということ。まさに、喜びを伝えるというのは、親が日々に今日も結構やったな親神様ありがとうございます。あく今日も結構やったな教祖ありがとうございます。という心からにじみ出てくる信仰の喜びが自然と親々から子供へ伝わっていくと思うんです。振り返りますならば、自分の子育てを考えるにあたり、教えるという事は比較的計画的に出来るんです。あります。しかし、親が自然と喜こんでいる姿が伝わるという事は意識しなくても伝わっていくんです。一見、聞いておりますならば、非常に簡単な様に思うんですが、一つに、今日も結構やなあ、明日も結構やなあ。あく今日もこうゆうふう結構に過ぎさせてもらった、という事が、子供達に伝わっていくと共に、一つに、あく今日もしんどかったなあ今日も嫌だったなあという、我が身勝手な親々の心も子供には自然と伝わって行くんだと。だからこそ、親の責任は重大であります。二代真柱様が、仰って下さいました、「縦の伝道の軸は親である」と言われるゆえんであろうかと私は思うんです。それでは、具体的に何を伝えていくか、何の喜びを伝えていくんだらうかと私は思うんです。信仰の喜びと言っても、沢山あるんです。朝、起きら

れて結構やな、今日も仕事が出来て結構やな、あ、今日はこうゆう人達と話が出来て結構やな、さて、その中で、どの喜びを日々に子供達へ伝えていくんだらうか。又、私がいつも考える事ではありませんが、どういう事を伝えて行かなければならないと共に、この子供達は、一体どんな将来を迎えるんだらうか。又、私は、この子供達にどんな大人になってほしいのだらうか。できますならば、将来、道の御用の上にお使い頂ける様にならないだらうかと、色々考える訳であります。

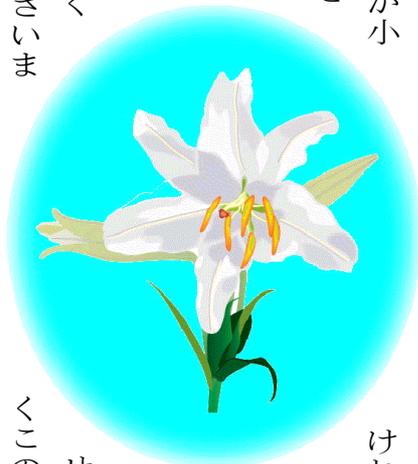
…… 中略 ……

(同じ日常を送りながら心の持ち方の対照的な二人のサラリーマンを例に話しをされて)前者のブツブツ言い続ける日々を送るサラリーマンと後者の喜びづくめのサラリーマン、喜びづくめと言っても、ほんのちょっとした喜びであります。しかし、これが一日経ち二日経ち三日経ち四日、一週間、二週間、一ヶ月、二ヶ月、三ヶ月、一年、二年、そして、十年、二十年、さらに言うならば、一生になったならば、小さな小さな喜びの積み重ねであります。もちろん積もれば山になると。これは非常に大きな事ではなからうかと私は思うんです。皆様方なら、どちらがいいかと言う事なんです。前者のサラリーマン、後者のサラリーマン、どちらも皆様の中には覚えのある姿があったらなからうか。どちらを選ばれるんであろう

かと思うのであります。私は間違いなく後者であらうと思うのであります。ましてや子供を持つ親ならば、自分たちの子供には後者の様な人生を送ってほしいと思うのではなからうか。人間は、つまらない、つらい、苦しい、悲しい人生よりも、楽しい、嬉しい人生がいいに決まってるのであります。

少年会員は、ゼロ歳から十五歳迄を少年会と申します。それ以降、育成会員、ここにお座りの殆どの方が、育成係でございます。明治二十一年八月三十日のおさしづに、「さあく、小人、小人は十五歳までは親の心通りの守護と聞かし十五歳以上はみなめんめんの心通りや」お教え頂いているのでございます。この、おさしづについて真柱様は立教百七十一年、春の学生おぢばがえりのお言葉において、「人間は十五歳までの病気や事故、災難は親の問題である。親が子供の上に見せて、お知らせ下さっている親神様の思いを思案して、心を治めなければならぬ。しかし、十五歳からはその人、自身の心遣いのありようが、そのまま身の回りに現れてくるというのです。つまり、十五歳という年齢は親神様、教祖の思し召しを思案し理解出来るまでに成長したという事であり、思し召しにかなった心を使い、責任ある行動をとる事が出来る年になったという事でありませう。」と言われ、私には、我々、親の縦の伝道についての

立場と態度を教え下さっている様に思えてならないのであります。これを思案させて頂きますならば、信仰の上で子供達は、十五歳迄は、親の庇護の元にあるという事ではなからうかと思ふんです。つまり、どんなにかわいい子であっても十五歳以降はその子供自身の心遣いのありよう通りの道がその子供達に現れてくると言う事です。十五年という月日は長いようであつたという間の月日であります。それぞれの教会にあつて、少年会活動しておつても、いつに間にか小学から中学へいよいよ、わかぎを卒業して高校へとあつたという間に過ぎ去って行くのが、十五年であります。親であるならば、一番近くにおればおほどあつたという間に過ぎ去って行くのがこの十五年という月日でございます。極端な言い方でございますが十五歳までにこの子供にそれぞれの徳分をいかした道をつけてやれる、どんな事があつても、親が喜べるいしづえを教える事が出来るという事ではなからうかと思ひます。十五歳以降、それぞれの子供達自身の心遣いのありようがそのまま身の廻りに現れて来る時に、しっかりと心遣いのあり方を身に付けさせてあげるように導き添わせると言う事でございます。又、さらに十五歳迄に子供達が親神様、



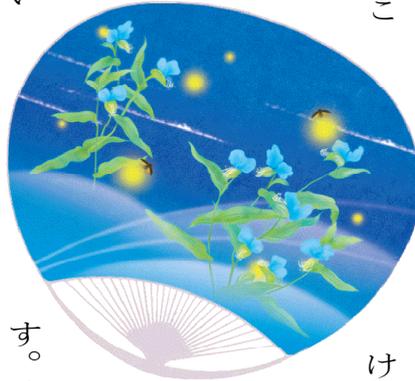
教祖の思し召しを理解出来るようにそして、思し召しにかなった心遣いが出るように育ててやらねばなりません。それぞれに、徳を積みせどんな事があつても喜ぶ事の出来る心を養ってやらなければならぬという事ではなからうかと思ひます。子供達自身の心遣いが、この身の廻りに現れ、埋まる事のない、心遣いが出る様に育てなければなりません。それには、どうすればよいのか、先ほどから申しています、何を伝えていかなければならないかと言う事なんです。

今、ここに結構にこうやって集わせて頂く事が、出来ておろうというこの姿、本日、この笠岡大教会の月次祭に結構にも集わせて頂いて、おつとめをさせて頂くこの姿の元は何かという事をしっかりと知らなければならぬと思ふのであります。すなわち、自分の信仰の元一日は、どうだったのか、信仰の世界の道に思いを馳せますと、そこには、いんねん寄せて守護するとお教え下さった様が一番、自分達のたすかりに近い道を初代、そして、それに続く道の先達が残してくれてございませう。私達の初代はどうやって、おたすけを頂いたのか、そして、おたすけを頂いて、どうゆう心遣いでこの道を歩ませていただいたのか……。私達

のそれぞれの信仰の根本とは、そして、たすかりの根本は教会にあるんでございます。お父さんが、お母さんが、おじいさんが、おばあさんが、そして、ひいじいさんが、ひいばあさんが、この信仰の根本の初代がどのようにおたすけを頂いて、どのように道を歩んできたのか、このにをいが教会にはあるんでございます。教会に足を運ぶ事によって、繋ぐ事によって、先程申しました後者のサラリーマンの様にどんな事があろうとも、喜びづくめの人生を通して頂き、このように、考える訳でございます。

…… 中略 ……

日頃から心がけて教会に足を運ぶという事は、非常に大切な事であり、又、教会は信仰生活にとって大切なよりどころという事だと思えます。この教会へ小さい頃から足を運びお道の雰囲気慣れ親しむこの事を繰り返していく事によって子供達の心の中に信仰心を把握していきたくと考える訳であります。



教祖百二十年祭以降、私達は土地所での日常的な信仰活動、行事活動へしっかりと、取り組む事の大切さを度重ねてお受けし流してまいりました。その中であって、少年会におきましては、全隊、全支部における行事活動を推進すべく、諸活動を展開してまいりました。そして昨年、その活動を

より具体的に推し進むべく、新たな活動方針、子供達を教会へ繋ぎ親神様への感謝の心を育もうと掲げ本年は、さらにその活動の充実をはかる上から引き続き、活動方針重点項目との同じものを掲げさせて頂きました。又、少年会活動の大きな流れの中でとらえました時、四年前に、少年会は創立四十周年という一つの節目を迎えました。そして現在は、より大きな目標と位置づけられた五十周年に向けて着実にその歩みを重ねていかなければならない時期になります。そうした中であって、まず会活動の拠点となる教会へ子供達が集う事を習慣化するその事を少年会として、真正面から取り組み活動の拠点となるところをしっかりと作り上げていきたいと考える訳でございます。その現実に向けて重点項目に掲げて

おります教会おとまり会、全隊実施を昨年に引き続き全力をあげて取り組んで頂きたいとございます。

…… 中略 ……

その後教会おとまり会の百パーセントの実施が打ち出されました。全教的な盛り上がりの中、昭和五十三年、ちょうど今から三十二年前実施率が八十六、七パーセントという大きな成果を見せていただきました。今の時句は、道の後継者育成が

急務である上からも最後にこの教会おとまり会の実施に取り組ませて頂き、用木信者の育成が伸び広く子供達が教会へ繋がりその活動を通して多くの子供達が信仰心を育む姿をお与え頂きたいと考える次第であります。昨年一年を教会おとまり会を推進していきました。昨年一年の集計はまだ出そろっておりませんが、昨年度の四月から九月までの上半期の実施率は二十五、三パーセントであり数をお見せ頂きました。約四分の一の教会が教会おとまり会を実施して下さいました。おそらく、一年の集計はさらに上になると考えている訳であります。昨年一年を通して、色々な教会おとまり会を見させて頂いた次第でございます。どうも、一つに教会おとまり会と申しますと、非常に敷居が高いという思いがあるとお聞かせ頂くんではあります。ところが、委員長の私が言うのはなんです、私は少年会活動の上で教会おとまり会が一番簡単であろうと私は思います。なぜならば、とりあえず教会にいるだけで、他に、何もいらぬんで、まず泊まらせて、昨日、親子が一夜を過ごすその中に、徐々に徐々に伝わって来るのが出来るんであります。色々な教会、そして、色々な話をお聞かせ頂きました。中々難しいなしんどいなと思ってやった教会おとまり会実は楽しかった。会長としてやったけども、ただ泊まらずだけやおつとめを一緒にさせてもらっ

た、お風呂も一緒にいらせてもらった、それだけやった。多くの教会では、もうプログラムを考えず、まず泊まることからやってみましょうと声かけをして、一年を通ってきました。本当に楽だなあその次に来たのが子供達が次ぎ、いつやるのという言葉だったのであります。そして、継続している教会にお聞きしますと、泊まる場所から次ぎに自分たちでプログラムを考え始めるんだと。実質に教会に来たら、掃除したり、又は朝のひのきしんをしたり、自分たちで色々なプログラムを考え始めたり、会長として情けないけれども一つも考えた事もないんですという教会がほとんどでありました。

……中略……

笠岡大教会の昨年の上半期の実施率は六十三隊、四十五パーセントの大きな数字をお残し下さいました。一年を掛けて六十四隊がこの教会おとまり会におつとめ頂いた訳でございます。そして、昭和五十三年、大教会の数値を見ますと、すべての教会が実施して下さり、百パーセントの実施率となっております。何卒、今回の教会おとまり会も一人でも多くの子供達が教会に繋がりますようお願いをしたいのであります。決して教会おとまり会は敷居の高いものではございません。何卒、やっていない教会は、まず、一回の実施をお願い致します。そして、やっておられる教会は必ず継

続をもってこの子供達の育成をお願い致したい所存でございます。一年を掛けて色々な教会から本当に教会が賑やかになったんだと。実際に内の周りには子供はおらんというところもあるんであります。けれど、上級から子供を借りてきた。どういうふうに借りてきたんかはわかりませんが、やったらやったで信者さんのところの子供に声をかけてみようか、又、不思議とそういうところから又、子供達の方から声がかかって一人でもいいんです。又、教会では、一番外孫、もう外に出ていった子供を寄せて孫だけでもやってみた、ここで子供達がさらに継続してやってみたいという事を言ってきた。結局はそういう子供達の更には、まわりの子供達を巻き込んで、うまく築いてもらう。一度、教会おとまり会をして頂いて、私はやっど準備段階が終了して、いよいよ今年は本格的に教会おとまり会に取り組んでいけるかなあと思っている次第でございます。

何卒、笠岡大教会におきましても、全隊実施の勢いをもって、この教会おとまり会に向かっていって下さいますようお願いしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。最後になりましたが、本年のこどもおちばがえりは、名称を立教百七十三年こどもおちばがえり、期間を七月二十七日より八月四日迄、テーマをみんな兄弟おやさへと掲げまして開催を致します。ご存知のように、

重点項目にこどもおちばがえりに参加する少年会員の増加を掲げて推進しております。この五月一日より事前申し込みが始まりました。そして、六月一日には、事前のひのきしん結団式をもって本格的に受け入れ準備に入らせて貰います。国々所々におかれましては、その準備に拍車がかかり、更に、勧誘に我を忘れて、走り回っての姿に感謝する次第でございます。ありがとうございます。

どうか、教会おとまり会で、集まった子供達、その一人一人が一人でも多くの子供達を誘って、おちばがえりが出来ますように、そして、少年会員の姿に親神様、教祖にお喜び頂けますように、ご丹精をお願いしたい次第でございます。そして、こどもおちばがえりで頂かれました、大きな成果をもって、行事活動で丹精をし、子供達を教会へ繋ぎ、親神様への感謝の心を報いるよう、育もう、更に、躍進していきますように、お願いを致しまして本日の縦

の伝道の講

習会の話

しを終わ

らして頂

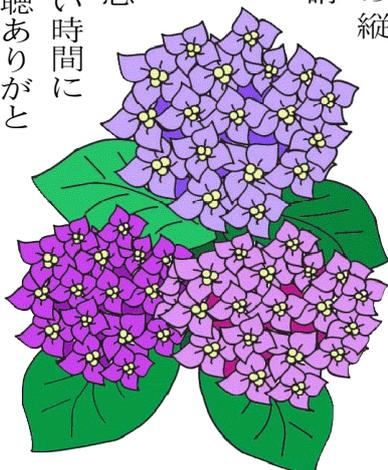
きたいと思

います。長い時間

にわたりご静聴ありがと

うございました。

(以上、祭典講話より抜粋)



こかん様に続く会 & クッキングコンテスト



足取り軽く、心も明るくいざ出陣！



爽やかな快晴のお天気の下、十三峠で記念撮影



じいちゃん・ばあちゃんの分もガンバルぞ!!

神殿に着いてみんなでおつとめをつとめさせて頂いた時、心の底から喜びが湧いてきて、親神様、教祖が「よう帰ってきたなあ」と言って下さっているのを感じて、胸がいっぱいになりました。

その後支部長様から、みんなに幸せになってほしいから、この思いを伝えるんだよ、親神様の教を基準に物事を判断していける人になってほしい、と、親心あふれるお話を聞かせて頂きました。

私たちが十三峠を歩いてい

婦人会笠岡支部女子青年は、5月29日、「こかん様に続く会」を開催し、十三峠越えを行った。また、青年会笠岡分会もこれに合わせ、十三峠を越えた。翌30日には、青年会、女子青年合同行事として「クッキングコンテスト」を詰所で開催。班ごとに、定められたメニューを作り、審査員が採点を行った。この日は、74名(青年会員23名、

女子青年38名、婦人会員9名、少年会員4名)が参加し、同じ笠岡につながる若者同士の親睦を深めた。

こかん様に続く会

女子青年委員長 上原 宏恵

婦人会創立百周年の句に委員長の御用を賜りましたので、女子青年としてしっかり種まきをさせて頂こうと思いました。一人でも多くの女子青年さんに笠岡に繋がって貰うため、大切な大切な

行事である「こかん様に続く会」に委員みんなで心一つにして、支部長様はじめ担当者の奥様方にお力添え頂いて、名簿上の全女子青年さんへのお誘いや、準備段取りををさせて頂きました。沢山の方に御参加頂いて、本当にありがたかったです。初日は十三峠越え。と言っても、歩いたのはわずか三時間でしたが、みんなで声を掛け合いながら、青年会の方に引っ張って頂いて、事故や怪我は何一つ無く、みんな歩き終わった後には達成感でいっぱい、いい顔をしていました。(私は妊娠8ヶ月で、前回も今回も伴走車でした(笑))



楽しいクッキングの始まり始まりい～

る間、奥様方は先に詰所に走って会食の準備をして下さいました。みんな、超豪華なメニューに、感激！でした。おいしくておいしくて、食べ過ぎる人が続出するぐらいでした。ありがたかったなあ。

次の日は、新たな参加者を迎え、みんなで朝づとめ参拝をさせて頂きました。真柱様に合わせて拝をした瞬間、委員さんが慣れない中本当に頑張ってくれた事がよぎり、こんなに沢山の笠岡に



一番オイシイのはどこでしょう？

繋がる若者で今ここに居られる喜びがあふれ、嬉しくて涙が止まらなくなりました。

初の試みで二日目は青年会と合同でクッキングコンテストを開催しました。青年会委員さんが身を粉にして盛り上げてくれたので、いい雰囲気でも楽しむことができました。沢山の協力のおかげでも充実した時間になりました。参加者全員に楽しんで頂けるようにと、必死で頑張ってきたので、みんな喜んで楽しんでくれる姿は本当に嬉



やっぱ、自分で作った物がオイシイわ！

しかったです。

時間がない中、一日だけでも、と参加してくれた人。初めてで嫌々ながらも参加してくれた人。遠い所から何とかして来てくれた人。そして、それを後押しして下さったみなさんに感謝しています。

これからも、にいがけのできる女子青年活動を目指して、みんな頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

第6回 大教会長杯 親善大スポーツ大会

恒例とも言える雨天

—— 思い通りに行かぬ中、心一つで喜びに繋げる好機！ ——

の御守護を頂いて

去る5月23日(日)、第6回大教会長杯親善大スポーツ大会を開催。

当日恒例となった雨天ではあるが、全ブロックの参加、計8チームがエントリーし、大会の主旨である「各世代、各ブロック枠を超え、交流を深める場に。」との大教会長様の親心を頂いて、毎回試行錯誤を繰り返しつつも、この大会に御理解を頂き、また、各会及び関係者各位の尊い御協力を賜り、今回で6回目を迎え、総勢168名の参加者の下、老若男女が一堂に会し、ソフトバレーボールに興じ、親睦の汗を流させて頂いた。



各チーム、好プレー・珍プレーが続出！

この大会で常に鬼門となっている天候・・・5月23日の暦を見ると、過去10年間の統計では日本全国晴れマークとなっている。今年こそ天候に左右されることなく安心してソフトボール大会が出来る、と淡い期待を胸に打合せを繰り返し当日を心待ちにしていた。そんな中、チーム作りに携わって頂いている各ブロック担当の方から、天候以外に5月は地域の小学校で運動会を開催するところが非常に多くなって来ているとの声で、大会の前日、当日に重なってしまう処もあると聞く。大会日が

迫って来ると、またも大会当日の天気予報は雨で、それも強風を伴った豪雨に注意と出ている。降水確率は滅多に見ることのない100%で、雨は前日夜から降り出した。結果、土砂降りの雨となって当日を迎えた。

開会式の挨拶で大教会長様は、雨天にも関わらず大勢参加して下さいた事に感謝を述べられ、その労をお労い下された。次に、予定通り、思い通りに行かない中も、親神様の御守護を思うとき、心一つで喜びに繋げる事が出来るとお励まし下され、雨天を通してその勉強をさせて頂ける好機とお話し下された。

考えてみると、当日晴れだったら運動会に出るとい子が沢山居た。そして最悪の場合、前日雨で当日晴れだったら、順延でそれこそ当日は運動会になるというケースもあった。我々の都合が先に立ち、思い通りに事が運ぶという事にとかく重きを置いて御守護の現れであると感謝しがちであるが、今回の場合、正に親神様の先回りの御守護さながらに、当日だけの雨の御守護を頂い

た結果、図らずもこの大会に参加される機会が増えたという御守護を賜ったのである。また、前日夜から雨が降り出した事で、会場の準備が一本化され、ある意味天候に左右されること無く、体育館で終始ソフトバレーボールに興じる事が出来、昼食には、婦人会の皆さんが朝早くから手がけて下さった温かいカレーを頂いて、其処此処で会話が飛び交い、和やいだ一時を過ごさせて頂く事が出来た。

因みに今大会を制したチームは福山チームで、準優勝は久松チーム、



昼食は婦人会の協力でカレー。

米およそ74.4kg、250人分が用意された

3位に上下チーム、そして、大教会長杯を受け取ったチームは最後に見事一勝を勝ち取った高屋チームに授与され、参加者全員に参加賞、並びに景品が大教会長様より手渡され、引き続き来年も続けて開催させて頂く旨を頂きました。

鑑みるに、この大会におかけ下される大教会長様の思いの先は、各ブロック、先々の教会における活性化を切に望まれるお心であろうと感じさせて頂いた次第です。

帰り際に婦人会の方々の真心により作りたてのおにぎりを準備して下さい、大会を無事怪我無く閉会させて頂く事が出来ました。改めてこの大会に心寄せ下された皆様方に御礼申し上げます。誠にありがとうございます。(担当・中村)

ソフトバレーボール大会

東福山分教会 枝 廣 大 樹

僕は、ソフトバレーボールよりもソフトボールがよかったです。雨で中止になったことが残念です。しかし芳井体育館で行われたソフトバレーボールも非常に盛り上がりました。必死になって一つのボールにくらついていく姿やチームの中で大人子供関係なく声をかける姿はいいものだと感じました。その中で僕は今大会「優勝」という二文字を手にすることができました。チームが一

丸となり一手ひとつに戦うことができたからこそ優勝できたんだと思います。ぜひまた参加したいと思います。チームの皆様ありがとうございます。並びに関係者一同食事の準備に大会の企画運営お疲れ様でした。

ソフトボール

島根分教会青年 余 村 元

五月二十三日(日)に笠岡大教会長杯親善スポーツ大会が開催されました。私は島根チームとして参加しました。大教会へ行く車中ではドキドキして眠れませんでした。島根チームはなかなか人数がそろわず少ない様ですが、十人を超える選手があつまりました。

会場につくとたくさんの方がウォーミングアップをしておられ、久しぶりにお会いする方、初めて会う方、笠岡にはこんなにもたくさんの方がいるのだなぁと驚きました。中には海外から来られた方もおられました。

第一試合、島根チームは高屋チームとの対戦でした。激戦の末なんと2-0で勝利をおさめました。最初は緊張してぎこちなかった動きも、体が温まってくるにつれ、ファインプレーもどんどん出てくるようになりました。ボールにも慣れてきた第二試合は、運動神経バツグンの福山チームで

した。島根チーム第一試合よりもはるかに動きはよかったです。ストレート負けてしまいました。

すべてのチームの第二試合が終了した所で、昼食をいただきました。婦人会の方が心をこめて作って下さったカレーとおにぎりはとてもおいしく、運動してペコペコになった選手達のお腹を満たしてくれました。昼休みにはいろんなチームの混合試合も行われ、幼児から大人まで、ほぼルールを無視した状態でしたが、本当に楽しそうでした。

午後には最後の3位決定戦となる島根チームVS上下チームの試合が行われました。第二試合での反省点をあげ、それを克服するよう練習し、みんなの気持ちを一つにしてのぞんだ試合でした。結果は残念ながらストレート負けでした。おしくも3位をのがしてしまいました。優勝は第二試合であたった福山チーム。島根チームは8チーム中4位でした。優勝できなかった事は残念でしたが、他のチームの方々とも交流でき、島根チームの結束力も高まった素晴らしい試合でした。最後にこの大会の主催者であります大教会長様、おいしい昼食を作って下さった婦人会のみなさま、前日より、準備や裏方などで、大会をスムーズに運んで下さった青年会のみなさま、本当にありがとうございます。

記念品は 笠岡大・関係会社で！

「女鳴物小物入れ」全委員部に下付

— 婦人会創立100周年記念総会 —

天理教婦人会創立100周年記念第92回総会が去る4月19日、親里で開催された。記念品として、支部、教区、海外婦人会へは三段、各委員部へは一段の「女鳴物小物入れ」が下付された。この記念品を担当したのが山田敏教前甲井分教会長が取締役会長を務める(有)山産コーポレーション(府中市中須町・山田英嗣代表取締役＝山田敏教氏の次男、長男・睦浩氏は現甲井分教会長)。三段の物は330個、一段は1万7000個が製作された。

同社は平成12年、家具の資材(桐)を中国から輸入し、家具メーカーに納品する会社として設立。現在は婚礼家具、家具全般を仕入れから製品完成までを一環として行っている。

山田前甲井分教会長が、天理の神具店で販売されている商品を見て、同社で扱っている桐材を利用して教会に役立つ物を安価で作りたいたいの思いから女鳴物台、小物入れ、小鼓箱、八足などの神具製作に取りかかった。

ある大教会婦人会総会の記念品にとの依頼を受け、女鳴物台を納入。その後、同社の存在が口コミで全国に広がっていった。

婦人会本部で今回の総会に下付する記念品を決める会議が開かれた。同社の製品を記念品にした出席の委員から「女鳴物小物入れ」が発案された。早速、同会の委員である上原きよ子笠岡支部長の仲介で見本を作り、中山はるえ婦人会会長様にご覧頂き決定した。

総会記念品係の中林由紀子(大原支部長)、平野よしえ、春野たみよ三委員が桐



作業は木工職人の手作業で進められた

材入荷時、作業開始時の2回来社、形、寸法などの具体的な打ち合わせが始った。上原委員、道友社カメラマンも記録ビデオ撮影のため同行。

材料は中身を湿気から守る桐を使用。まず輸入された原板を荒材に切断する事から始まり、材料を削る、各部分ごとに目的に合わせてカットし、ボンド付けをして一応組み立て終了。更に一晩置いて板のねじれなどをチェック。最後に手作業でペーパーがけをして完成。

桐は豆科の植物。外気の水分を吸う反面、水分により変色する特徴があり管理が困難。大、小合わせて1万7000余の物だけに最初と最後の物とでは2年程の差が出る。そのため外気を寄せ付けない様に、完成品をサララップで包み木の台の上に乗せて保管。

本来の同社の業務とは別の作業のため計画通りには進まず、作業も分担化し、最後(本年に入り)は1日100個完成のノルマを課せたが不足を言う者はいなかった。

記念品を入れる箱、表



各委員部に下付された「女鳴物小物入れ」

の印刷、またまとめて50個ずつ入れる箱も全部同社で用意。箱詰めも山田前会長夫人を中心に同社をはじめ教会関係者などの総力を結集しての取り組みだった。

完成品は平成21年12月、同22年3月、2回に分けて婦人会本部に納入。5トントラック2台を要した。そして天理教校学園高校の地下室で総会の日を待った。

記念品製作という大役を終え、上原きよ子支部

長は「自分から売り込むのではなく、他の人が声を出して下さる。いろんな道中があっただろうが上級への長年のふせ込みに対する神様からのごほうび」と労った。

また同社、工場長も皆が勇む姿に感銘、6月27日、大教会別席ひのきしんデーに合わせて夫妻で初席を運ぶ予定。更はその行動に感動してもらう人も――。

山田前会長は「皆の協力があったの事。会社の特徴を活かし安価、良品で皆さんに喜んで頂ける神様の道具をこれからも作っていきたい」と抱負を話す。

そして最後にポツンと一言「決してネックレスや指輪などの入れ物には使って欲しくない――」



心から笑えるようになった

神村分教会 村上晃一

僕は修養科三カ月を終えて全て自分のこれからの生活や人生にプラスになる事ばかりでした。

まず、修養科に入って、生活習慣が来る前と百

八十度変わった事です。毎日、朝早くから起きて、ひのきしんをさせてもらって、朝づとめをする。一カ月目はこの朝起きが一番大変でした。でも二カ月目、三カ月目と時がたつたび、自分で起きれるようになって、二カ月目に朝起きだけは修養科中に実践しようと思うようになり、帰ってきた今でもしています。

次に、自分は影の働きをしようと思い、みんなの見ていない所で詰所のいろんなひのきしんをさせてもらいました。最初は自分のためでした。しかし、いつしか皆の事を思うようになってきて、自分でも不思議でした。

自分は来る前まで、親神様、教祖をあまり信じていませんでした。でもある日同じ分教会から来た人が、教祖のおでましをまたさせていただいている時に、突然、「口元が温かくなり、その日はとても寒くとなりいた人に、「温かい？」と尋ねたら隣の人は当然、「寒い」と答えました。その人は、口元に、ケガをしていて「口まわりが温かいんじゃないか」と言っていました。詰所に帰ってマスクを外すと、そのケガが元々なかったみたいに見えるのでそれを見た僕は、本当に親神様、教祖はいるんだなと思いました。

修養科中自分は今までに無いくらい悲しい事がありました。それは三月二十七日、いつも通りに朝が来て、いつものように修養科へ行って、いつ

もより早く足早に帰りました。詰所に帰って、警察の方がいて、何かあったのかなあとと思い、中へ入りました。そして、入口で主任先生に会い、体中に電気が走る事がりました。主任先生の口から「敬三が出直した。」と聞かされました。自分はその時、何言ってるんだろ、えっ? と思いました。頭の中が真っ白になって、だれの声も聞こえなくなつて、気付いた時には涙がでていて、信じられませんでした。そして、その時の助員の先生に、「皆の前で泣いたらいけん。晃一がしっかりせにゃあいけん。」と言われて、皆の前で泣かないように、そして、敬三さんのやっていた事、自分がやらせてもらおうと思ひ、朝の号令と連絡係を主任先生に言つて、残り2ヵ月がんばろうと思ひました。

その時から朝起きと影でのひのきしんを実践しようと思ひ初めました。

自分は修養科に来て変わった事があります。それは自然で本心に心から笑えるようになった事です。地元に戻つてからたくさんの人に晃一変わったね。今めっちゃ良い顔してるよと言われるようになりました。自分は修養科に入る前、仕事で辛い事がいっぱいあつて、作り笑いしかしてなかったのが今では心から笑えるようになり、修養科に来て本当によかつたと思つています。これからこの文をみてたくさんの人がおぢばに帰り、たくさ

んの人が修養科に入つてくれる事を思つています。身体の身上だけでなく心の身上も治して下さい。おぢばに一人でも多くの人に帰つてほしいと思ひます。三ヵ月間、おぢばや笠岡詰所でお世話になつた事、楽しかつた事、悲しかつた事、自分は一生忘れないようにしようと思ひました。

すーよーかかんそう

吸江分教会 西村 紗智

修養科へ行く以前の私は、まさに、このかさおかというフリーペーパーを読んだことも見たことも無いくらい、天理教に対して無知であり、興味も全く無くなつている程、信仰から離れてしまつていました。

小さいときは鼓笛隊に行つていたのですが、そのとき設けられていた会長さんのお話の時間でした。か、天理教の教えを素直に学べる機会が無かつたように、今考えると思ひます。

なので、この時期に修養科に行かせて頂けて、天理教の教えを思ひ出させて頂けたことがとてもありがたかつたです。

私の天理教の好きだと思ふ教えは、まず人の為、世の為になることをして、そうすれば自分に徳がたまつて返つてくる、という教えです。

この教えは、実際にそうなると思ひているし、

ただただ正しいことをするのは単純に気持ちの良いことだと体現でき、そういつたあたり前のことではありますが、毎日掃除をするとか、毎日一時間歩いたりとか、早寝早起きをするなど、簡単なようで社会生活ではなかなか出来なかつたことをさせて頂け、それがとても気持ち良く、身体と心に良いことだと気付かせて頂けありがたかつたです。

これはこの先も出来る限り続けていこうと思ひます。

帰つて二週間がたちますが、今だに、家のお風呂掃除や食器洗いや、玄関の掃除をしないといけない衝動に駆られ、暇があればやっている状態なので続けられそうです。

修養科に行つて得た一番の財産は全国に本音で話せる友達が、根暗な私にもたくさんできたことです。

このことは一生の宝になりました。それから自分のことが前よりも好きになれたことです。

老若男女のそれまで他人だった人達も生活出来たことで、自分の足りない所を含め、自分がどうゆう人間なのかよくわかつて自信がつかました。

助けてもらった田中組のみなさんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

◆ 実行委員会報告

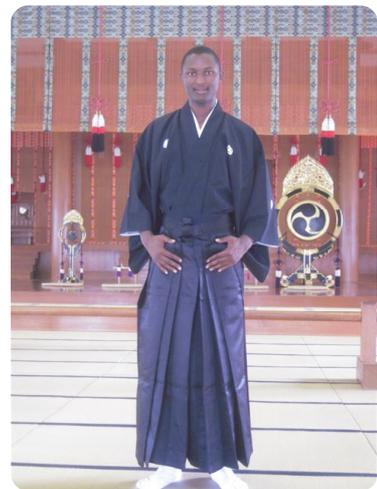
(実行委員 上原)

別席ひのきしん団参が目前に迫ってきました。それぞれ教会で準備を進めて下さっている事と思います。27日は午前11時に東講堂での伊藤芳正先生のお話が始まりますので、なるべくそれに間に合うようにご参集の程よろしくお願い致します。又午後は1時15分に東礼拝場に集合し、1時30分からおつとめをつとめさせて頂きます。各ブロック毎に別れての神苑でのひのきしんは2時からです。

6月が終わって7月に入ると、いよいよこどもおぢばがえりです。今年は三年千日活動第2年で、「家族揃って教会参拝」の活動指針を中心に皆さん頑張っておられる事と思いますが、こどもおぢばがえりは、その成果を出す格好の場所になると思います。そしてそれが終わると、いよいよ10月31日の笠岡一手一つ大会です。次々とお道は年間行事が開催されていきますが、私達は来年の大教会創立120周年に向けて定めた心を見失わないように、しっかりとした足取りで前進させて頂きましょう。梅雨に入り蒸し暑い毎日です。体調に気を付けてお励み下さい。

第二回 タンザニアおたすけ訪問 with おやさま

昨年のタンザニア訪問に続き、2度目のおたすけ訪問を5月4日～13日の10日間で行かせて頂きました。同行してくれたメンバーは、芳井分教会・佐藤和代さんと只今ケニアにて活動中の米府分教会・三代幸徳君でした。私たち一行はORES(タンザニア孤児支援組織)の手助けの元、孤児院や小学校や中学校を回らせて頂き、岡山・広島教区から送られた衣料を配布させて頂きました。またそれぞれの徳分を活かし、おやさまの道具衆として路上での12下りやおさづけの取り次ぎを懸命にさせて頂きました。昨年の活動が生かされたのか、昨年以上に多くの人達が待っていて下さり、衣料を喜んで下さいました。また、ORESのスタッフもおさづけの取り次ぎに共に参加してくれ、共に身上の方々に祈りして下さいました姿が印象的でした。どこを訪問させて頂いてもどこに行けばお道の話を知ることができるのか、たすけて貰えるのか、祈って貰えるのかと聞かれ、タンザニアの中での拠点を持つことの大切さを教えられました。これからも遅々たる歩み、微々たる歩みですが、おやさまにお凭れして前向きに歩んで行きたいと思っております。



さて、帰る便を同じくして、ORESのスタッフの1人であるスティーブ君(20才)と共におぢばへ帰って来ました。もちろんお道の勉強と、別席を運ぶこと、そして日本語も勉強したいと。大教会で順序参拝を済ませてから1日1席ずつ運び、無事6月5日に2人目のタンザニア人用木が誕生しました。座りづとめのお手も振れるようになったことから、大教会の直轄祭をつとめて頂きました。笠岡初めてのタンザニア人のおつとめをみて感激も一入でした。これからどうぞよろしくお願いします。



(上原志郎)

教会おとまり会の報告 (島中隊)

実施日 平成22年3月6日・7日
 参加者数 少年会員6人 育成会員2人 合計8人
 プログラム
 6日 14:00 集合。そのまま子供達の祖父母の講社祭全員で参拝。
 15:00 教会へ移動。三社参拝。
 遊び(折り紙・ビデオ鑑賞) お菓子配り。
 16:40 おつとめ練習。
 17:00 夕づとめ。
 17:30 夕食(カレー)、片付け。
 18:30 お楽しみ行事(ビンゴ大会)。
 20:30 神殿にみんなで布団を敷いて三社参拝、就寝。
 7日 6:30 起床、布団片付け、洗面。
 7:00 朝づとめ。
 7:30 朝食(みそ汁・のり・ふりかけ・漬け物等)、片付け。
 8:30 自由行動(折り紙・なわとび・ペーパークラフト)、思い出作り。
 11:00 解散。

所 感 意外と、子供達が鳴物に興味を持って一生懸命練習して、何人かおつとめに(本番)つとめられる程でした。

又、子供達が何かと率先して準備や片付けをしてくれました。

みんな協力し合って楽しいお泊り会でした。



こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「里」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させていただきます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子

おや里や先人の面桜花の中

▼表紙の絵

神邊分教会よふぼく

小坂道和さん

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護と 陽気ぐらし実現へのお導きのまに／＼日々は結構に恙なく生活させて頂いております その中でも今は二月から続いた天候不順も治まり 月初めの連休は晴天の日が続きます 目には木々の緑が鮮やかに映える等 五月らしさを味わわせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々喜びと感謝の心一杯に 朝に夕にと御礼申し上げます 御恩報じを思い念じてひのきしんに又たすけ一条の御用にと精一杯勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し戴きました月毎の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて五月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には日々の理作りに励み 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 改めて御礼申し上げます 眞実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先月二十九日の全教一斉ひのきしんデーには晴天の御守護のお陰で 共にひのきしんの汗を流させて頂いたばかりでなく、おちば一つに繋がる一列兄弟の理も味わわせて頂く事が出来ました 誠に有難うございました これからも文字通り「日の寄進」となるよう勤めさせて頂く所存でございます 又今月は直轄巡教をさせて頂き大教会創立百二十周年記念祭に向けての成人の歩みを再確認すると共に 歩みを確かなものにすべく、六月二十七日の別席ひのきしん団参 十月三十一日の笠岡一手一つ大会を心一つに睦み合つとめさせて頂く事を誓い合わせて頂きました 更には又 本日は縦の伝道講習会を開催させて頂きます 近年とみに子供達を取り巻く環境が悪化しております 個を尊重するあまり 集団の大切さが失われ 結果 家族の団欒さえも失われつつあります 改めて子供が大切だからこそ 親の思いや信仰を伝える事の大切さを学び 家族団欒の姿を世に映して行く所存でございます 加えて眞実の親心に触れて貰うべく、子供おちば帰りには一人でも多くの子供さん達に帰って頂けるよう力を注いでいき 教会おとまり会等の実働もして行く所存でございます

何卒親神様には旬々にお与え頂く成人の歩みを活かしつつ一条の御用に邁進する皆の誠眞実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上にも尚も月日の御守護を賜り たすけ一条の喜びさえも世に映して行けますよう 御守護お導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

訂正とお詫び

▼「かさおか」第49巻第5号2ページ目最下段「別席に向けての取り組み」の記事中、

婦人会本部より「1人の会員が1人の別席者を御守護頂きましょう」とのスローガンが打ち出され、**笠岡支部では**別席月間を3回に渡って決めました。

同支部では「あきらめずに、細やかに、…」

の部分

婦人会本部より「1人の会員が1人の別席者を御守護頂きましょう」とのスローガンが打ち出され、別席月間を3回に渡って決めました。

笠岡支部では「あきらめずに、細やかに、…」の誤りでした。

編集掛の手違いで、読者の皆様方の誤解を招き、関係各位にご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫びし、ここに訂正いたします。

▼平成22年5月21日発行の『笠岡大教会 部内名称録』において、「鳥取教務支庁」の所在地等を左記の通り訂正願います。

【郵便番号】682-0013

【所在地】鳥取県倉吉市福庭390

-2-

【電話番号】0858-24-5220

FAX 24-5221

大教会だより

◎第八二七期修養料

自 立教173年2月1日
至 立教173年5月27日

*教 養 掛

- 三ヶ月間 田 中 隆 之
(福山分教会長)
- 一ヶ月目 高 島 定 彦
(出雲分教会長)
- 二ヶ月目 三 宅 俊 正
(作備分教会長)
- 三ヶ月目 藤 本 基 喜
(恵陽分教会長)

*修 了 者

- 海松ヶ岡 渡 辺 守
- 廣 町 宮 本 洋
- 稲 倉 廣 田 真 也
- 稲 倉 中 野 正 剛
- 稲 倉 渡 邊 洋 一
- 神 村 前 田 悠 輝
- 神 村 村 上 晃 一
- 宇津戸 向 島 時 義
- 笠 岡 植 山 裕 美
- 吸 江 西 村 紗 智
- 東福山 枝 廣 千 香
- 芦 品 原 コ ト

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教173年6月19日終講
多古浦 余 村 弘

◎直属ひのきしん特別隊

自 立教173年6月1日
至 立教173年6月20日
瑞 雲 豊 田 俊 美



先日、胃内視鏡検査を受けた。

胃重、食事時のノドの違和感が気になっていた。そのうちに治るだろうと思っていたが症状は悪くなるばかり。ついには「ふんけい」の仲の焼酎クンとの付き合いも辛くなっただ。これは一大事と知り合いの医師の診断を受けた。

「今日はどうした？」

「ちょっと胃が悪くて——」

「えっ！ 胃が何か悪い事をしたか？」

こんな会話をかわす仲ではあるが、何か気になる事があったのか結局、検査となった。何事にも無頓着な私だが、流石に前日は寝れなかった。

内視鏡で映されるノド、食道、胃の内部がモニターで見える。「うーん」とか言いながら時々カメラを止

めて何かしている。検査後、医師の説明。使用した薬のせい何か頭がボーとした感はあるが不安の絶頂。

結果「テレビコマーシャルでやっている鉄腕アトム」つまり「逆流性食道炎」。胃酸の逆流で食道に炎症が起こるという事だった。医師が語るには「胃は何を食べても一応受け入れ、胃壁から分泌される胃酸によって消化していく大事な物だ」との事。

この話を教会長である私に置き換えてたらどうだろうか？ おぢば、また上級からの打ち出しなどに対し、まず素直に受け入れ教会につながる人たちに伝えていくだろうか？ これは無理だと初めから自分の都合の良い様に判断して、ご守護の源を逆にしていてのではなからうか——。大いに反省させて頂いた六月某日の出来事だった。(て)